

第57回広島県公立小中学校学校事務研究大会報告

広島県公立小中学校学校事務職員研究協議会

令和元年7月26日（金）広島県民文化センター・広島国際会議場において、第57回広島県公立小中学校学校事務研究大会を347名（研究集録配布のみを含む）の参加を得て開催しました。

開会式には山田哲也広島県教育委員会管理部教職員課課長をはじめ、多くの来賓のご臨席を賜り、広島県教育委員会教育長、広島県連合小学校長会会長からご祝辞をいただきました。

1 大会の概要

「学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援する学校事務を～「守る 打つ 走る」連携プレーでチームをつなぐ～」を研究テーマに掲げ、次のような内容で研究討議を行いました。

(1) 研修1

「事務職員に期待すること～共同事務10年を迎えて～」

講師 広島県教育委員会 管理部教職員課 人事管理監 高尾 俊寛 様

教育を取り巻く環境は変化しており、Society5.0と言われる超スマート社会へと社会の在り方そのものが急激に変化してきている。そのような状況の中で人間の強みである、現実世界を理解し意味づけできる感性、倫理観、板挟みや想定外と向き合い調整する力、責任をもって遂行する力が今求められている。

AIを代表する技術革新、少子高齢化による人口減少。「人生100年時代」を迎える人口動態の変化などを背景に競争力や付加価値の源泉は、確実に「物・金」から「人材」へ移行しつつある。課題を設定し、イノベーションを生み出す等、AIには不可能な変化を起こさせるのが人間であり人材である。

教育の目的は、将来の子どもたちと社会全体の幸せそれを実現するための学校教育目標でありその下で仕事をしている私たちは、その大前提を意識することが大事である。

事務職員の仕事は少数職種の職でもあり学校によって一人しかいないということになるが、逆に自分が担っている分掌については、考えを直接管理職に伝え取り組みに繋げることのできる職でもある。子どもたちの学びや生活の環境を整備する仕事、確かな根拠に基づき的確な仕事を行う職、スペシャリストとして自らの仕事に誇りとやり甲斐を持って進めていって欲しい。いろいろと事務職員に求められるものが大きくなっている昨今、教育現場に携わるものとして自分の仕事は何のために行っているのか考え、子どもたちの幸せのため、社会全体の幸せのため、学校教育目標の実現のため、その中で自分の力を更に発揮できるような考え方が大事である。自分の仕事子どもたちのためになっていると感じられるそれがワクワク感であり、やり甲斐・楽しさに繋がるのではないか。そういう風に捉え楽しく仕事を進めていけるようにして欲しい。

共同事務や事務職員の歴史等共同実施10年を迎えて、これから事務職員がどう変わって、仕事を進めていったらよいのかとても分かりやすい話でした。

研修 2

「学校事務をつかさどる」

講師 廿日市市立大野中学校 校長 田坂 雄一 様

学校事務をつかさどるとして、「1 学校事務の共同実施の成果」「2 事務をつかさどる」「3 広島風おこのみプランの評価」「4 自分を知る～エゴグラム」「5 自分との対話の中で考えたこと」の5つの観点から各角度をつけていろいろとお話をさせていただきました。一つ一つの観点が具体的で分かりやすい話でした。仕事の考え方、取り組み方、また自分を見つめることで改めてその仕事を見直す良い機会になったと思います。ご示唆いただいたことを今後の私たちの仕事、共同事務室や各所属で活かしていきたいと思います。

(2) 研究報告

「第2期県事研ビジョン『広島風おこのみプラン』実行に向けての取組
～『守る・打つ・走る』連携プレーでチームをつなぐ～」

研究部

平成27年度に改定し、4年目となった平成30年度の第2期県事研ビジョン進捗状況調査についての分析・考察、集約した事例等の報告がありました。取組の5年目となる今年度、改めて広島風おこのみプランのミッション・ビジョンを意識して事務を行いたいと思いました。

(3) 分科会

第1分科会 三原市立小中学校事務職員研究協議会

業務記録兼事務引継書 ～事務研から発信する業務改善～

討議の柱 各市町の事務研での業務改善や事務引き継ぎのとりくみについて
「日々の業務の中から」仕事を先どるとは？

第2分科会 加計共同事務室

私たちの学校経営参画

討議の柱 「事務の専門性を生かす」って？
教職員とどうかかわる？

第3分科会 研究部

テーマ「～「守る 打つ 走る」連携プレーでチームをつなぐ～」

討議の柱 チーム勝利（学校教育目標の達成）のための連携プレーとは
教育内容にかかわる事務職員のPDCA

分科会では、他の市町の事務職員、様々な世代の事務職員と実践の交流や情報交換ができ有意義なものとなりました。今回学んだ様々な取り組みを今後の業務に活かしていきたいと思います。

社会が大きく変化している中で、人材の育成が重要となっており、これからの時代に必要な資質・能力を育成する教育が重要となっています。学校に求められることが多くなり、学校全体で組織と

して課題に取り組む必要があります。しかし、日々目の前の事務処理に追われているというのも現状です。今回の研究大会で、いろいろとお話を聞き、これからも変化し続ける社会から教育に求められるものに対して、学校の職員としてどう考え仕事していけばいいか、大会の研究テーマである、「学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援する学校事務を～『守る 打つ 走る』連携プレーでチームをつなぐ～」のためにはどうすればよいか、いろいろと教えていただきました。今後の取組に活かしていきたいと思います。